

# WebSAM DeploymentManager Ver5.1

## データバックアップ手順書

— 第1版 —

# 目次

目次.....	2
はじめに.....	3
1 初期セットアップ、または設定項目変更時のデータバックアップ手順.....	3
2 DPM の運用時に更新されるデータのバックアップ手順.....	4
3 データ復旧手順.....	6

## はじめに

本書では、以下製品についての DeploymentManager (以下略、DPM) 運用時に使用するデータのバックアップおよび、データの復旧手順を記載します。

- WebSAM DeploymentManager Ver5.1 Standard Edition
- WebSAM DeploymentManager Ver5.1 Enterprise Edition
- WebSAM DeploymentManager Ver5.1 for SSC

### ヒント

“WebSAM DeploymentManager Ver5.1 for SSC”は、SigmaSystemCenter に含まれる製品となります。

## 1 初期セットアップ、または設定項目変更時のデータバックアップ手順

Web サーバ for DPM に管理サーバ for DPM やデータベースを登録した場合、もしくは、Web コンソール上で、設定変更を行った場合に、以下のデータを控えておいてください。

### ヒント

設定を変更しない限り再度採取する必要はありません。

### ■ Web コンソールの設定値

Web コンソールにて、「Web コンソール」メニュー→「環境設定」を選択して、表示される「Web コンソール設定画面」の各設定値

### ■ 共有フォルダのパス

Web コンソールにて、「設定」メニュー→「詳細設定」から、「全般」タブを選択して、「サーバ情報」の「共有フォルダ」に指定した値

### ■ 管理サーバの設定値

Web コンソールのツリービュー上で、管理サーバのアイコンを右クリックし、「管理サーバのプロパティ」画面で表示される各設定値

### ■ DeploymentManager 管理者パスワード

DeploymentManager 管理者パスワードに設定した値

### ■ データベースサーバの IP アドレス

以下レジストリの「値のデータ」に設定されている値

レジストリキー : HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager¥DBSrvIPAddress

## ■その他

手作業で変更したファイルやレジストリがある場合は、該当する設定内容

## 2 DPMの運用時に更新されるデータのバックアップ手順

DPM の運用時に、以下の操作等を行った際に更新されるデータをバックアップする手順を説明します。  
管理サーバ for DPM およびデータベースがインストールされたマシン上でバックアップを行ってください。

- ・管理対象コンピュータの追加/削除
- ・パッケージの作成/修正/削除
- ・シナリオ作成/修正/実行/削除

### (1)該当マシンへログオン

管理者権限のあるユーザで該当マシンへログオンしてください。

### (2)DPM に関する処理をすべて終了

以下の処理がすべて終了していることを確認してください。

- ・シナリオ実行中ではないこと（シナリオを実行中の場合は、シナリオが完了するまで処理を行わないでください。）
- ・DPM の Web コンソール(DPM の各種ツール類)などを起動していないこと

### (3)DPM のサービス停止

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」から、“DeploymentManager”という名前で始まるサービスをすべて停止します。

### (4)管理サーバ for DPM のデータのバックアップ

以下のフォルダ配下の全てのファイルをバックアップします。

- ・<管理サーバ for DPM のインストールフォルダ>%Datafile
- ・<管理サーバ for DPM のインストールフォルダ>%PXE%Images
- ・<管理サーバ for DPM のインストールフォルダ>%Linux
- ・<管理サーバ for DPM のインストールフォルダ>%Log

#### ヒント

- 管理サーバ for DPM のインストールフォルダの既定値は、「C:\Program Files\NEC\DeploymentManager」です。
- DPM を再セットアップした環境にバックアップしたデータを復旧する場合は、管理サーバ for DPM のインストールフォルダのパスも控えておいてください。

・共有フォルダ

ヒント

共有フォルダは、Web コンソールの「設定」メニュー→「詳細設定」画面の「全般」タブを選択して、「サーバ情報」の「共有フォルダ」にて確認してください。共有フォルダの既定値は、「C:¥Deploy」です。

・バックアップイメージファイル(拡張子“.lbr”、“.nvr”)

ヒント

- 前回、バックアップ時からバックアップイメージファイルに変更がある場合に限り、バックアップしてください。
- 拡張子“.nvr”ファイルは、存在する場合のみバックアップしてください。

(5)データベースのバックアップ

コマンドプロンプトを起動して、以下のコマンドを実行してバックアップファイル(DPM.bak)を採取します。

注意

データベースが管理サーバ for DPM と別のマシンにインストールされている場合は、(7)の後に本手順を実施してください。

```
osql.exe -E -S localhost¥DPMDBI  
BACKUP DATABASE DPM  
TO DISK='DPM.bak'  
WITH INIT  
GO
```

ヒント

- データベースは以下のパラメータを固定で使用しています。  
インスタンス名: DPMDBI  
データベース名: DPM
- バックアップファイル(DPM.bak)は、以下のフォルダに作成されます。  
<Microsoft SQL Server のインストールフォルダ>¥Backup  
<Microsoft SQL Server のインストールフォルダ>の既定値は、「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.¥¥MSSQL」です。¥には、SQL Server のインスタンス数の数値が入ります。ご利用の環境に応じて読み替えてください。

(6)レジストリデータのバックアップ

コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、レジストリデータのバックアップファイル (RegExportDPM.reg)を採取します。

```
regedit /e RegExportDPM.reg "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager"
```

ヒント

RegExportDPM.reg は、コマンドを実行したフォルダ下に作成されます。

#### (7)DPM のサービス開始

(3)で停止したサービスをすべて開始します。

以上で DPM の運用時に更新されるデータのバックアップは完了です。

### 3 データ復旧手順

前章まででバックアップしたデータは、以下の手順に沿って復旧してください。

#### ヒント

DPM のインストールパスは「2 DPM の運用時に更新されるデータのバックアップ手順」の(4)で控えたパスを指定してください。

#### (1)該当マシンへログオン

管理者権限のあるユーザで該当マシンへログオンしてください。

#### (2)DPM をインストール

DPM Ver5.1 「ユーザズガイド 導入編」に記載の手順にて、DPM をインストールしてください。

既に DPM をインストール済みの環境に対して、データ復旧を行う場合は、本手順は必要ありませんので、(3)へ進んでください。

#### ヒント

DPM のインストールパスは「2 DPM の運用時に更新されるデータのバックアップ手順」の(4)で控えたパスを指定してください。

#### (3)管理サーバを登録

Web コンソール上で、「1 初期セットアップ、または設定項目変更時のデータバックアップ手順」の「■ 管理サーバの設定値」で控えた内容にて管理サーバを登録します。

#### (4)共有フォルダを設定

Web コンソールの「設定」メニュー→「詳細設定」から、「全般」タブを選択して。「サーバ情報」の「共有フォルダ」に「1 初期セットアップ、または設定項目変更時のデータバックアップ手順」の「■共有フォルダのパス」で控えた内容を設定してください。

#### (5)DPM のサービス停止

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」から、“DeploymentManager”という名前で始まるサービスをすべて停止します。

(6)データのコピー

「2 DPM の運用時に更新されるデータのバックアップ手順」の(4)でバックアップした内容を、バックアップ時と同じフォルダパスに上書きします。

(7)データベースのバックアップファイルのコピー

「2 DPM の運用時に更新されるデータのバックアップ手順」の(5)で採取したバックアップファイルをバックアップした時と同じフォルダパスに上書きします。

**注意**

データベースと管理サーバ for DPM を別のマシンにインストールしている場合は、(13)の後に本手順を行ってください。

```
osql -E -S localhost¥DPMDBI
RESTORE DATABASE DPM
FROM DISK = 'DPM.bak'
WITH REPLACE
GO
```

(8)コピーしたデータベースのバックアップファイルの設定確認

- 1) エクスプローラ等から、バックアップファイルのプロパティを表示して、「セキュリティ」タブでユーザーに“SQLServer2005MSSQL”で始まるユーザが存在するかを確認します。
- 2) 「詳細設定」タブをクリックして、1)で“SQLServer2005MSSQL”で始まるユーザが存在した場合は、「親からの継承可能なアクセス許可をこのオブジェクトと子オブジェクトすべてに伝達できるようにし、それらをここで明示的に定義されているものに含める」にチェックがはいっているかを確認します。  
1)で、“SQLServer2005MSSQL”で始まるユーザが存在しない場合は、「親からの継承可能なアクセス許可をこのオブジェクトと子オブジェクトすべてに伝達できるようにし、それらをここで明示的に定義されているものに含める」にチェックを入れます。(この項目にチェックを入れると、「セキュリティ」タブに“SQLServer2005MSSQL”から始まるユーザが追加されます。)

(9)レジストリデータを適用

「2 DPM の運用時に更新されるデータのバックアップ手順」の(6)で採取したレジストリデータのバックアップファイルを適用(エクスプローラからダブルクリック等)します。

(10)その他のデータをコピー

「1 初期セットアップ、または設定項目変更時のデータバックアップ手順」の「■その他」で控えておいた内容をそれぞれ設定します。

(11)DPM のサービスを開始

(5)で停止したサービスをすべて開始します。

(12)Web コンソールの設定

「1 初期セットアップ、または設定項目変更時のデータバックアップ手順」の「■Web コンソールの設定値」で控えておいた内容をそれぞれ設定します。

(13)管理者パスワードの設定

Web コンソールの「設定」メニュー→「管理者パスワードの設定」を選択して、「1 初期セットアップ、または設定項目変更時のデータバックアップ手順」の「■DeploymentManager 管理者パスワード」で控えておいた DPM の管理者パスワードを設定します。

以上で DPM のデータ復旧は完了です。